

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191400033		
法人名	株式会社カネネット・ふれあい		
事業所名	ふれあい多居夢 藤		
所在地	埼玉県蕨市中央3-15-22		
自己評価作成日	平成26年1月11日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成26年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年11月に開所し、3年目を迎えました。当事業所はグループホームで、蕨では初めての小規模多機能ホームが同じ建物にあります。入居者の方には、ご本人らしく笑顔で過ごして頂けるよう、全職員で話し合った当ホーム独自の理念を掲げています。できるだけご本人の希望に沿えるよう、買い物や散歩などに出かけています。個別で、鉄道博物館や巣鴨等にも出かけます。また、月に1度、絵手紙のボランティアの方に来て頂き、入居者の方も思い思いの絵を描かれ楽しみの一つとなっています。1階の小規模多機能ホームのレクリエーションにも、毎日のように体操や脳トレに参加されている方もいらっしゃいます。医療面では、隣に協力医があり、何かあった時はすぐに相談でき、診察して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・季節行事のおかめ市や神社参拝に出かけたり、祭り神輿が玄関前の広場を練り歩くほか、ボランティアとの交流など利用者が地域とつながりながら暮らしていくことを積極的に支援されている。また利用者同士で将棋を打ったり、COCO一番の辛いカレーを食べに出かけられるなど、その人らしさを大切にしたり取り組みが行われている。
 ・ご家族のアンケートでも、「安全面、衛生面でも満足している」、「いつ訪ねて行っても、あちこちから明るい声を掛けて下さり、本人の様子を教えてください、安心です」などのコメントが寄せられ、ご家族が現在のサービスに満足されていることが伺える。
 ・目標達成計画の達成状況については、定期訓練時に当直職員が手薄となる夜間の火災発生を想定した訓練に取り組まれるほか、地震対策としてのDVDを視聴され、避難訓練の手順や対応方法を学ぶ等、体制整備を図られている。又、ご家族向けのお便りや、日頃の食事内容や献立を情報発信され、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあい多居夢蔭独自の理念を掲げ、事務所に掲示している。また、全体会議の時には必ず職員全員で読み上げ意識を高め実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念がつけられ、管理者と職員はそれらを共有し、利用者が住み慣れた地域の中で、その人らしく笑顔で過ごすことに、気配りされた利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、地域の行事やごみゼロ運動等に参加している。また、お祭りの時にはお神輿がホーム敷地内に立ち寄り利用者様が大変喜ばれた。	日常的に散歩や買物に出かけ、地域の方々と挨拶を交わされたり、地元神社への参拝やおかめ市に出かけられている。また、各種ボランティアとの交流や地域の祭りの際にはお神輿が玄関前広場を練り歩くなど、地域の人たちとの交流に積極的に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、市の職員、家族、民生委員、包括支援センターの方にホームの現状や利用者様のご様子を報告している。また、それぞれの立場からのご意見も聞かせていただき、サービス向上につなげている。	定期的開催され、事業所からの報告のほか、熱中症や感染症対策、定期健康診断や予防接種などの話し合いが持たれ、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者の方には日頃から連絡しており、運営推進会議や消防訓練等にも参加して頂いている。何かあった時は細かく丁寧に指導して頂いている。	申請手続き時や報告・相談などの機会のほか、地域の介護支援専門員の会合時などにもコミュニケーションを図られている。また、運営推進会議でも適宜事業所運営でのアドバイスを頂いたり、介護相談員の受入れをされるなど、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を開いている。具体的な行為、声かけについてフロア会議等で職員に伝達し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を中心に事業所全体での研修が行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動を制限することないよう利用者に合わせたケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員は虐待防止委員も兼ねており定期的に会議を開いている。職員で問題点を話し合い、具体的に目標を立て虐待防止に対する意識を高めている。また、事業所内でも定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、権利擁護に関する制度が必要な入居者はないが、今後、勉強会や研修の機会を作り、知識の向上に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、その都度丁寧な説明を心がけ理解して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意し記入をしてもらうようにしている。また、家族の来所時にも意見や要望があった時はお聴きし、運営に反映できるよう取り組んでいる。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族については面会時や運営推進会議などの機会に意見、要望を聴き取られている。その意見、要望は職員間で話し合い、事業所運営やサービスに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行い職員の意見を聴く機会を設けている。また、各業務の担当者がそれぞれ話し合い、レクリエーションや装飾、環境整備など具体的に行う内容を決めて実行している。	定例会議や個別面談のほか、本社担当者との個別面談時にも意見・提案の聴き取りが行われている。発言しやすい職場環境がつけられ、外出企画や業務分担、個別ケア対策など、事業所運営やサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が入居者の担当や各係を担っており、それぞれの役割をまかしている。また、年2回個人面談を行い、各職員の努力や成果を評価している。個々の目標を立て、向上心を持って取り組んでもらうよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修を行っており、職員の経験や力量に合わせ研修を実施している。また、必要に応じて社外研修に参加する機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や地域のケアマネージャー研修等の参加をしており、同業者と交流する機会を設け、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で本人と直接会う時は、本人が今どんな思いでいるか、不安に思っていることは何か、思いを受け止め共感することから信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査で、これまでの家族の不安や苦労に共感し、本人との思いの違い等も含めて家族が求めていることをじっくり聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した段階で家族に入居者の様子を伝え、必要ならば他のサービスの利用を勧めるが今のところ例は無い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活暦などを家族に記入してもらい、今までどのように生活してきたのかを理解し対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしの様子を手紙でお知らせしている。状態が変化した時等はすぐに家族に連絡している。また、家族が来訪された時には要望や不安等傾聴し、情報交換を行い共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に家族と外出したり、自宅や近くの親戚の所に行ったりしている。また、家族や知人が気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるような雰囲気作りに努めている。	友人・知人の面会や電話のやり取り、自治会行事への参加や近くの喫茶店や居酒屋に出かけられている。また、出張サービスは利用せず、地元の理・美容室に出かけるなど、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気持ちを察し特定の利用者が孤立しないよう職員が間に入り関係作りを支援している。また、利用者の個性や特技を活かし、お互いが認め合い、支え合える関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した家族などもたまにホームを訪ねてきており、何かあったら連絡してもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子から本人の希望や思いを把握するよう努めている。意思表示が困難な方は日々の様子や表情、仕草等から把握に努めている。また、家族から話をきいたりしている。	思いや意向の把握が難しい利用者については、日頃の関わりの中で、眼をかけ、声を掛け、言葉や表情・仕草などからその真意を推し図るよう努められている。また、生活歴の振り返りや家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が繰り返し話す過去の出来事や記憶からこれまでの生活歴や習慣などの把握に努めている。また、家族や前事情所などからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケース記録に入居者一人ひとりのその日の様子や会話を記入している。申し送りや、カンファレンスで職員間で情報の共有に努めている。。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、職員間で具体的なケアについて話し合い、介護計画の作成に繋げている。作成した介護計画書は家族に説明し、意見や要望を聴いている。	利用者や家族から意見・要望を聴きとり、医師・看護師の意見を含め、関係する職員全員で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に入居者一人ひとりのその日の様子や会話、食事摂取量や排泄の有無を記入している。職員全員が確認するようにし、情報の共有に努めている。記録からみえる入居者の様子を実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院の同行受診や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、現在訪問マッサージの利用を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加したり、定期的にボランティアの方に来て頂いている。また、近くのスーパーや美容院、理髪店などを利用して地域との繋がりを持てるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族が希望する病院へ受診している。必要に応じて、通院の付き添いや家族と同行し、こちらでの様子や変化を伝えている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、契約している訪問看護ステーションの看護師来て頂き入居者の健康管理や医療面での相談、助言、対応をお願いしている。また、体調異常時や、転倒、発熱した時等、日中だけでなく、夜間でも連絡が取れ相談にのって頂いており、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は病院に本人の状態に関する情報を提供している。また、退院時は病院と連絡を取り退院に向けた支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできることを家族に丁寧に説明している。本人や家族の状況の変化がある時は今後の事について話合うようにしている。また、協力医や契約している看護ステーションとの連携体制については話し合っていく必要があると思う。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も協力医療機関との連携のもと、方針を共有し、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。また、法人内の認定看護師が講師となり、重度化や終末期に対する研修に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルをチャート図にし掲示し、職員全員が周知できるよう定期的に対応を確認している。繰り返し、勉強や話し合いを実施していく必要があると思う。その他、消防署にて救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	消防署の協力の元、年2回避難訓練を行っている。避難経路の確認をはじめ、消防署への連絡や消火器の使用方法を学んでいる。職員が少ない夜間帯を想定した避難についても訓練を実施している。	定期訓練では初期消火・通報・避難訓練のほか、当直職員が手薄となる夜間の火災発生を想定し、各職員の自宅から駆けつける時間を考慮し、応援に入る手順など、実践的な訓練に取り組まれている。訓練後には地震対策としてのDVDを視聴されるなど、体制整備を図られている。また、町会との相互合同訓練も行なわれている。	災害対策には充分取り組まれているが、高齢の利用者をあずかる事業所として、継続的な訓練の実施は不可欠であり、火災発生時、第一発見者の対処・連絡方法や2階階段からふとんを使用しての救出訓練など、より実践的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の自尊心を大切にし、言葉かけや接し方など丁寧な対応を心掛けている。	法人研修や内部研修が行われ、礼儀を失することなく、馴れ合いにならぬよう努めるなど、利用者の人格を尊重した対応、個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせて本人の思いや希望を言いやすい雰囲気、環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を尊重しながら、散歩や買い物、レクリエーションや制作活動等の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時など、季節に合った服装の援助をしている。また、日々の髭剃りや整髪、女性ではお化粧している方もいる。また、定期的に美容院、理髪店にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや嚥下状態を把握し、入居者に合った食事形態で提供している。また、テーブル拭きや食事の準備や片づけができる方とは一緒に行っている。	利用者個々の力に合わせ、下拵えや調理、後片付けなど職員と共に行っている。定期的な外食や催事には好物の寿司やうなぎを楽しまれるなど、利用者の好みや希望を大切にしたり取り組みが行われている。また、ご家族向けの施設だよりで、献立内容についての情報発信もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量は記録しており、個々の食事、水分摂取状況が把握できるようにしている。水分摂取が少ない方には、好きな物やこまめに飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を実施するようにしている。また、食後は自分でできる方は声かけし、援助が必要な方は職員が介助している。歯ブラシ、コップの消毒も1週間に1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、入居者に合わせトイレ誘導をしている。個々の羞恥心に配慮し支援している。	適切なオムツやパットの使用と自立を目標に、一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、職員間でも申し送りで排泄状況を伝達している。水分摂取を促したり、朝にヤクルトや牛乳、ヨーグルト等を提供している。また体操等も行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中の時間内での入浴となっているが、午前、午後など入居者の希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴できなかった時は、足浴や清拭等の対応をしている。また、季節の行事に合わせて菖蒲湯やゆず湯などにしている。	午後入浴と清潔維持を基本とし、利用者の希望に沿った支援をされている。体調不良で入浴出来ない場合には足浴や清拭をされるほか、ゆず湯などの季節湯を楽しまれている。また、利用者個々の状態に合わせて、職員複数での介助体制をとるなど、安全対策も取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調に合わせて休息して頂いている。気持ちよく眠れるよう室温や照明に注意している。乾燥時期は居室に加湿器を置くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり個々の薬の内容がわかるよう処方箋を綴っている。また、服薬時は職員同士で声を掛けあったり記録にチェックしている。状態の変化があった時は医師に連絡したり、その状態を記録に記載するようにしている。薬の変更があった時はその都度、申し送りで伝達し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のこれまでの生活歴や嗜好を把握し、個人に合わせた役割(食事の準備や掃除)を手伝って頂いたり、歌番組を流したり、制作活動をおこなっている。また、ボランティアの方にきて頂き入居者が楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買い物や散歩の希望があった時は出かけるよう支援している。また、天気のいい日や季節に応じてドライブや外食など外の景色や空気を味わっていただけるよう努めている。	利用者の希望に沿った散歩や買物、近くの喫茶店や和食レストランに出かけるなど外出を楽しまれている。また、神社参拝、季節ごとのお花見や家族といっしょに外食されるなど、外出の機会が多く持たれ、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として積極的な支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や管理能力に応じ、入居者のお小遣いとしてお預かりしているお金を本人に渡し、好きな物を買に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意があり、本人の希望があった時は電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に飾りつけを行うよう努めている。飾りつけは入居者と共に作成し、仕上げた作品を飾る事で入居者の喜びに繋がっている。また、フローアには生花をかざり、入居者に活かしてもらっている。室内の温度や明かり、窓からの光にも配慮している。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音・採光・居室表示など、きめ細かな配慮がとられている。また、利用者の描かれた正月飾りや絵手紙、テーブルの上には季節の花が飾られ、利用者が居心地良く過ごされるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり、気の合う入居者同士でテレビを観ながら話ができるようにしている。また、その時の入居者の状況により、少し離れた席に座って頂くなどしている。フローア内では1人になれる空間は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用してきた筆筒や使い慣れた物を用意して頂くよう家族に伝えている。写真や小物、花などをかざり、本人がリラックスできる空間になるよう努めている。	馴染みのタンスやテレビ、自作のぬり絵が飾られたり、好みの寝具ほか、仏壇などが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫をされている。週1回のリネ交換のほか、毎朝掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札には自分の名前を掲示したり、トイレや浴室もわかりやすい表示を掲示している。建物内には必要な個所に手すりを設置し、入居者の状態により手すりを使用し安全かつ、自立支援に繋がるようにしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:ふれあい多居夢 藤(グループホーム)

作成日:平成 26年 3月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時における訓練は行っているが年に2回のため各職員がしっかりと行えるとは言い切れない現状がある。また、新人職員に対しても入職したその日から非常災害時の対応が分かるように指導できていない。	全職員が消防訓練に参加が出来、しっかりと内容の把握や災害時の対応が適切に行えるようになる。	年2回の消防訓練に全職員が参加できるようにし、新入職員に対しては各マニュアルの把握や、消火器・設備についての説明を行っていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。